



# 東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校  
令和8年6月12日  
令和8年度 第3号  
<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

## わたしが運動会を覚えていない理由

校長 五十嵐 潤

先日の運動会では、多くの皆様から温かいご声援をいただき、ありがとうございました。子どもたちは、ご家族や地域の皆様の拍手や声援に励まされながら、練習の成果を精一杯発揮していました。

さて、運動会の準備の際、6年生が心を込めて準備や練習に取り組んでいたのも、こんな話をしました。「校長先生は、小学校の頃の運動会の記憶がありません。何組だったのか。勝ったのか負けたのか。どんな競技をしたのか。何の係を担当したのか……。まったく覚えていないのです。」

もちろん、昔のことだから忘れてしまった、ということもあるでしょう。しかし、それだけではない気がしています。きっとわたしは、「ただなんとなく」運動会に参加していたのだと思います。言われたことをやり、時間が過ぎるのを待ち、終われば終わり。そこに、「自分からやろう」「みんなのために」という気持ちはなかったのではないかと。そんなふう思うのです。だからこそ、今の6年生の姿を見ると、「カッコいいなあ」と思うと同時に、当時の自分を情けなく思います。

今の6年生は、きっとこの運動会を忘れないだろうと思います。それは気持ちを込めて取り組んでいたからです。応援練習で声をからしながら仲間を励ます姿。係の仕事に責任をもって取り組む姿。うまくいかなくても何度も練習する姿。勝ち負けだけではなく、「みんなで運動会をつくる」という気持ちをもって取り組んでいました。

わたしは、「できた、できない」よりも、「どんな気持ちで取り組んだか」が人を成長させるのだといつも強く思っています。それは子どもも大人も、です。勝っても負けても、うまくできてもできなくても、気持ちを込めて取り組んだ経験は、その人の心を育てます。考え方を育てます。物事に向かう姿勢を育てます。このことは運動会だけではなく、授業もそうです。遊びもそうです。

以前、知らない大人たちと「はないちもんめ」をやりました。最初は少し照れくさかったのですが、「楽しもう」と思ってやってみると本当に楽しく、たくさん笑い、仲も深まりました。「何をやるか」も大切ですが、「どんな気持ちでやるか」は、もっと大切なのだと思いました。「つまらない」と感じる時、人はどこかで「誰かが自分を楽しませてくれる」と思っているのかもしれない。受け身になっている、人任せになっているのです。

同じ出来事でも、受け身で向き合えば「つまらない」で終わってしまいます。けれど、自分から関わろう、楽しもう、学ぼうという気持ちで臨めば、その経験は、自分を成長させる大切な時間になっていきます。

この運動会を通して、子どもたちは「本気で参加することの価値」を感じてくれたのではないかと思っています。そして我々もまた、子どもたちの姿から「気持ちを込めて取り組むこと」の大切さを学んでいるように思いました。記憶に残るのは、結果ではなく、本気で向き合った経験なのですね。